



2連勝を果たしたバレーボールチーム

## 四県スポーツ大会で優勝

10月21日、長野県・群馬県・埼玉県・新潟県の四県による平成21年度四県農業大学校親善スポーツ大会が群馬県高崎市の群馬県立農林大学校を中心とした会場で開催されました。参加種目はバレー、バスケット、野球、バトミントン、卓球の五種目、参加選手は総合農学科二年生を主体に一年生、専門技術科、実科研究科生70名で編成されました。試合結果はバレーボール、バスケットボールは優勝、バトミントン二位、野球と卓球が三位となり、とりわけ、バレーボールは連覇を達成しました。

他県の農業大学校とも交流できる良い機会の場となり、勉強、生活にいっそう弾みがつくこととなるでしょう。

### 「像」



長野県農業大学校校長  
太田 恒善

今春、東京国立博物館で、奈良興福寺の「創建千三百年記念国宝阿修羅像展」が開催され、大変なにぎわいのことでした。三つの顔と六本の腕を持つ少年のよう可憐で、阿修羅とは程遠い「像」ですが、この少年のような清々しさが人々の心を捉えたようです。この「像」は漆や麻布を素材とした「乾漆造」という技法で作られています。仏像や彫刻は、ほとんどが漆、金属、木材、粘土、石などが素材です。これが仏師や彫刻家の手によって、何百年、何千年と人々の信仰の対象となり、芸術として人々を楽しませてくれたりしています。「像」にならなければ、化学成分は同じでも単なる石ころや土くれであったり、木材のように朽ちていくものもあります。

「像」を「人」に置き換えてみたらどうでしょう。本校では学生の皆さんが「像」となっていたため、今後とも教・職員一同、全力を注いでまいります。



## 現場でプロジェクト中間検討会を開催

本校での教育の大きな特徴でもあるプロジェクト活動の成果を互いに検討する「プロジェクト中間検討会」が六月三十日（火）に開催されました。

当日は、梅雨時で心配がされましたが晴天に恵まれ、学生全員が自分の実践している圃場や畜舎で発表を行いました。発表では苦労していることや、今までに分かったこと等の発言に対し、色々と質問が出され、回答に窮する学生もいました。



小諸キャンパス内の水田圃場



小諸キャンパス内の花きハウス

かし、学習内容を再点検する上で、良い機会となり、仲間が取り組むプロジェクトの内容を知ること、新たな発見も多かったのではないかと思います。

このプロジェクトの成果は、十一月八日（日）に小諸キャンパスで開催される農大祭で発表展示され、十二月九（水）～十日（木）には、松代キャンパスで成果発表を行います。

一年間の取り組みが学生を二回りも二回りも大きく成長させ、自信を持って農大を巣立つてほしいと思います。

## 産地視察、広いぞ北海道

七月七（火）～二日（土）二年生は北海道に産地視察研修に出かけました。北海道といえば夕張メロンが有名ですが、JA



北海道大学クラーク像の前で

夕張をはじめ、牧場、サクランボ農家、稲作試験場と様々な品目を視察しました。「広いな北海道は」学生たちは生まれて初めて目にする北海道の広さに圧倒されていました。

メロンの農業のハウスを見学したり、サクランボ農家で直売の話を知ったり、チーズやアイスクリームの加工に取組む観光農場を訪ねたりと長野県とは違う北海道を満喫していました。

旭山動物園や小樽の運河、洞爺湖、北大等農業以外の名所巡りも視察研修の醍醐味のひとつです。

海外各地を旅してきた学生も飛行機に生れてはじめて乗った学生も広い北海道の大地とともに旅する中で、農大生としての一体感を得たようです。

## 学生を成長させる

### 農家体験実習!

9月8日から10月2日まで1年生は恒例の現地体験実習を体験しました。早朝5時からの農作業、グリーンツーリズムでの都会のお客さんとの交流、今年も各地のプロの農家の下で学生たちは様々な体験をさせていただきました。

他人の家の釜の飯を食べること、まして、非農家出身の学生にとっては、農家での生活は初めての体験です。それでも、一月ぶりにキャンパスに戻った学生たちは、プロの農家の生き様の薫陶を得て、見違えるほど成長しているのが不思議です。こうした「社会勉強」が将来、就農するにしても、就職するにしても、いまの学生に一番必要とされている教育なのかもしれません。農家の皆さん本当にありがとうございました。



東御市内の野菜農家で研修する仲村大さんも農家実習は初体験





松代キャンパスで飼育される羊牧場を案内



参加者のほとんどが農業が必要と答えます

## オープン・キャンパスで後輩を案内

八月の六(木)〜七日(金)の両日、松代キャンパスでは恒例のオープン・キャンパスが開催されました。昨年を上回る百七名が参加しました。

食や農業についての太田校長のミニ講義と映像を使つての学校紹介の後は、一年生が中心となって、寮や農場、校内設備等を案内しました。二年生の前では幼く見える二年生も高校の後輩を前にすると、とても大人びて学校について説明できるのが不思議です。小諸キャンパスの二年生が育てた白土馬鈴薯も好評で、保護者からも熱心に多くの質問が寄せられました。思っている以上に世間の農業への関心は高まっているのかもしれない。

## コラム・大学編入

農業大学校から毎年何人かの学生が4年制大学に編入します。平成19年度は信州大学農学部へ3名、平成20年度は信州大学農学部と弘前大学農学部、平成21年度も四年生大学に2名の学生が進学する予定です。

このため、毎年、将来希望として進学をあげる学生も少なくありません。そこで、信大生となった森幸穂さん(20年卒)に後輩へのアドバイスをもらいました。

「同期には北大からの編入生もいますし、友人もたくさんできて毎日を楽しんでいます。英語などの授業では苦労することもあります。専門知識については同級生よりも私の方が詳しいほどです。でも一番大切なことはプロジェクトを通じて何を学びたいのか目標をはっきりさせること。ただ4大に進学したいからと編入しても目的がなければ意味がありません」

先輩からの厳しいアドバイスに学生たちもうなずいて納得していました。



## 農産物マーケティング論実習

小諸キャンパスの二年生は、農産物マーケティング論実習のため十月七日(水)から九日(金)の三日間、校外実習を行いました。

群馬県・茨城県で先進的事例として、運営形態が違う農産物直売所や農産物加工所、つくばの中央農業総合研究センターの研究事例などを中心に研修を行いました。

折から大型台風が上陸したところで天候が荒れ模様で大変でしたが、学生たちは熱心に耳を傾け、沢山の質問もありました。みんな元気で、無事終了することができました。



茨城県内のJA水戸の地区農産物直売所「つちっこ河和田」で顧客アンケートを実施



群馬県内JA甘楽富岡で農産物の流通システムを見学





松代キャンパス内で留学生と記念写真

## 農大にも国際化の波？

7月31日、国際協力機構（JICA）海外研修生が視察研修で本校を訪れました。モンゴル、カンボジア、ネパール、スリランカ、フィリピン、フィジー、パプアニューギニア、エジプト、ケニア、モザンビーク、タンザニアと全員が開発途上国出身です。農業が中心の国だけに、入学動機や将来目標に鋭い質問が寄せられます。学生側も負けずに、栽培されている牧草の品種や農業就業人口がどれだけかと質問を返しました。

「さすが農業の実践をしている学校だけある。多くの意見や質問が出され、よい交流ができた」と研修生側にも喜んでいただきました。



最新式のバイオマス燃焼炉に感動

## 校外実習・バイオマス

農大の授業というと畑での実習や教室の講義だけではありません。県内各地の先進事例の視察見学も行います。ところが、今年度は農家ではなく「工場」視察が加まりました。地域から発生する未利用資源をエネルギー源として活用している長野市内の「イトウ精麦」を環境保全論の授業で訪れたのです。日本でも最先端のバイオマスストーブや地球温暖化やバイオマスを巡る社会情勢の話に学生たちは農業の広がりや社会的な役割に目からうろこのように鋭い質問も多くでました。現場を体験をしているだけに「大学の工学部の学生よりもよほどセンスがいい」受け入れ先の工場長からも褒められました。

# 平成22年度長野県農業大学校「総合農学科」学生募集!!

■人数:60人

■対象:高校卒等 ■修学年限:2年

■専攻コース

作物・畜産・野菜・果樹・花きの中から入学後の授業や実習等を通じて専攻コースを選べます。

■資格・特典

- 在学中に次の資格・免許の取得のための学習等を行います。  
毒物劇物取扱者、大型特殊免許（農耕車）、車両系建設機械運転技能、フォークリフト運転技能、小型移動式クレーン運転技能、玉掛け技能、家畜人工授精師他
- 卒業者は、人事院規則等に基づき、短大卒業と同等に扱われ、また専門士の称号が付与されます。

■推薦入試(募集人員終了)

願書受付…21年10月26日(月)～11月6日(金)

入学試験日…21年11月17日(火)

■一般入試

願書受付…21年12月21日(月)～22年1月7日(木)

入学試験日…22年1月18日(月)

■問い合わせ先

長野県農業大学校事務局 TEL026-278-5211(代)

担当:宮澤 茂樹

総合農学科は2年間通して学生寮に入寮する、全寮制です。



松代 自啓寮



大型特殊免許(トラクター)の実習